

道徳科学習指導案

主題名「あいてにしんせつに」〔学習指導要領:B 親切、思いやり〕

令和5年11月29日（水） 第5校時 1年教室

I 主題設定の理由

1 価値観

思いやりとは、相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り、相手に対してよかれと思う気持ちを向けることである。相手の存在を受け入れ、相手のよさを見出そうとする姿勢が求められる。

思いやりの気持ちは、具体的に、励ましたり、援助をしたり、温かく見守ったりするような親切な行為として表れる。親切にした方もされた方も、互いに温かい気持ちになり、人間関係を和やかなものにしていくことができる。人との関わりが増えるこの時期に、様々な人との多様な関わり合いから、温かい気持ちを実感させて、思いやりや親切な行為の意義を実感できる機会をつくる必要がある。

そこで、親切な行いをする事のよさについて理解を深め、身近にいる人に進んで親切にしようとする実践意欲・態度を養うことが大切である。

2 児童観

(削除)

3 教材観「はしの上のおおかみ」

本教材は、自分より小さい動物に対して、意地悪をしていたおおかみが、強くて大きな熊に親切にされたことで、親切にされることやすることの素晴らしさに気付き、自身を振り返り、小さな動物にも優しく接することができるようになるという内容の教材である。

自分より体力的に優位な熊が予想に反して親切な行いをする場面や、そこから改心するおおかみの行動は児童にとって親しみがあり、共感しやすい。

おおかみの心の変容がわかりやすく、その気持ちの変化から、温かい心で人に接することの気持ちのよさ、大切さ、親切な行動のよさを児童に伝えてくれる教材となっている。

思いやりとは、「誰に対しても」親切に接することの大切さを考えることであるが、この教材は、特に、自分より弱い立場に対して、温かい心で接し、親切にする大切さに気付くきっかけを教えられる教材となっている。

4 人権教育との関わり

1年生という時期の児童は、自己中心的であり、主張も強く、相手のことを考えられない場面も多い。未熟な関わりの中で、いじめ等の問題は、どの学校で、どの子にも起こりえる問題である。学校教育では、日常の指導や児童の身の周りの様々なことを教材として、自分や他の人を大切にすることができるよう子供の心を育てる必要がある。特に児童の心に浸透しやすいお話は、児童の心の変容を促すきっかけを与えてくれる。

本教材は、冒頭で、自分より弱い者、小さい者に対して体力的な優位性を誇示して優越感に浸っていたおおかみが、自分より体力的に優位なくまに対して媚びへつらうという態度をとる。この偏った接し方、自分の好みや利害にとらわれた行為は、公正さを欠き、差別や、偏見につながるものである。

教材後半部は、熊の親切な行為に触れたおおかみが、前半の差別的な行為とは真反対の動きをする。熊との出会いから、自身が個として人として大切にされたという経験が、今度は他の人を大切にするという行為につながっていく。お話冒頭があることによって引き立つ、象徴的に描かれた弱い立場への親切や思いやりである。自他のよさや違いを認め、一人一人かけがえのない大事な存在として、尊重しようとするおおかみの態度は、人権教育につながっていくものである。

手立てとして、おおかみの視点から熊の行動をとらえたり、おおかみ自身の変容についてとらえたりすることで親切な行動のよさを感じられるようにして人権の大切さをとらえられるようにしたい。

II 本時の学習

1. **ねらい** 意地悪をしていたおおかみが、熊に親切にされて心を入れ替える姿について話し合う活動を通して、相手に親切にすると、自分もうれしい気持ちになることに気づき、身近な人に進んで親切にしようとする道徳的実践意欲と態度を養う。

2. 人権教育の視点【人権教育で育てたい能力・態度】

- 感性：おおかみのこころの変化を考え、親切にすることは、他の人だけでなく自分も気持ちよくなることに気付く。
- 実践力：親切にすることに対する多様な意見を知り、親切にし合うことで互いに気持ちよく過ごせるように生活を向上させる。

3. 展 開

主な学習活動 ○主な発問(◎中心発問◇補助発問) 予想される児童の反応(S)	○指導上の留意点 【人権教育で育てたい能力・態度】
<p>1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。(5分)</p> <p>S：帰りのしたくをてつだってもらった。 S：うれしかった。ありがとうって思った。 S：遊びの仲間に入れてあげられなかった。 S：いやな気持ちだった。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><めあて> だれかにしんせつにするとどんな気持ちになるでしょう。</p> </div>	<p>○親切にすることのよさについて問題意識をもてるよう、事前アンケートの結果を提示し、親切にできたこと、できなかったことや気持ちを振り返る。</p> <p>○学級内の人間関係にも関わる内容なので、氏名はあまり出さず、行動・気持ちを教師が読み上げるようにする。</p>
<p>2 「はしの上のおおかみ」を読み、話し合う。(20分)</p> <p>○うさぎを追い返し「えへん・へん」と言っているおおかみはどんなことを考えたのだろう。</p> <p>S：やった。おいかえしたぞ S：おれはつよいんだぞ。えらいんだぞ。 S：おれのいうことをみんなきけ。</p> <p>○くまの後ろ姿を見送りながら、おおかみはどんなことを考えたのだろう。 (くまに対して) S：優しいな。心が広いな。 (自分に対して) S：俺はなんてひどいことをしていたのだろう。 S：自分もみんなに優しくしなくてはいけない。 (うさぎに対して) S：うさぎさん。意地悪してごめんなさい。 (道徳的価値から) S：優しくされるとこんなにうれしい。 S：自分も思いやりの心をもてるようになりたい。</p> <p>◎うさぎをわたして「えへん・へん」と言うおおかみはどんなことをかんがえていたでしょう。 S：どうだ、すごいだろう</p> <p>◇うさぎさんは、そっと下ろされたときどんなことを</p>	<p>○自分のこととして考え、めあてにせまるよう、おおかみに自我関与させ、おおかみの変容について、導入で想起した自分の気持ちと重ねる。</p> <p>○おおかみの心の変容をとらえられるよう、まず、自分よりも弱い動物たちに意地悪をして得意になったり、おもしろがってしまったりするおおかみの気持ちや心の弱さをとらえさせる。</p> <p>○おおかみが考えたことについて多様な意見が出るよう、対象を補助的に示したりしながら、くまの親切な行為のよさについて考えていく。</p> <p>○児童がよりおおかみに寄り添って考えられるよう、教師がくま、児童がおおかみ役で役割演技を行い、対話をさせる。</p> <p>○多様な意見が出るよう、反応を予測しておき、(左記)、意見が偏る時は補助発問を行うようにする。</p> <p>○見ていた児童も気付いたことや考えたことを発表できるよう、自分の考えと比べて見るよう伝える。</p> <p>○親切にすることのよさに気付けるよう、おおかみの心の変化を二つの「えへん・へん」で比べさせる【感性】</p>

<p>考えたでしょう。</p> <p>S：よろこんでもらえてうれしい。</p> <p>◇おおかみはいつまでもくまさんの後ろ姿をみながら何を考えていたでしょう</p> <p>S：とてもいい気持ちになった。</p> <p>S：親切はこんないいことだから、これからはみんなに親切にしよう</p>	<p>○自己満足から、相手に喜んでもらった満足によるうれしさへとおおかみに対する児童の意見が深まるように、うさぎの気持ちを考えさせたり、くまに渡してもらった時の気持ちを思い出させたりするような補助発問を行う。</p> <p>○おおかみの気持ちの変容を確認できるよう、「前よりずっといい気持ちになりました。」の一文を提示する。</p>
<p>3 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考える。(10分)</p> <p>S：親切にするとされた方もした方もみんないい気持ちになる。</p> <p>S：これからは誰にでも親切にしたい</p> <p>4 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えの振り返りをする。(10分)</p>	<p>○<u>親切にしてももらった人だけがよい気持ちになるのではなく、親切にした方の人も互いによい気持ちになっていることに気付けるよう、親切をした側の気持ちをおさえる。</u></p> <p style="text-align: right;">【実践力】</p>
<p><振り返り></p> <p>S：友達に親切にできなかったこともあったけれど、親切にすると自分も相手もいい気分になるから、誰に対しても親切にしていこうと思った。</p>	

<p>◆評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発言、ワークシートの記述から、「つい意地悪をしてしまう気持ちと、人に親切にしたいという気持ちの両面から、誰に対しても親切にすることのよさや難しさについて考えている」姿を見取る。 ・発言、ワークシートの記述から、「これからの自分は、相手に対してどんな思いをもって接していきたいかを考えている」姿を見取る。
--